

函館市観光基本計画 2024~2028

令和6年4月 / 函館市

観光の価値を高め、函館を照らす ～もう一回、もう一泊、もう○○～



目次 INDEX

第1章 計画策定の趣旨

1 計画の背景と目的	01
2 計画の位置付け	02
3 計画期間	03

第2章 函館市の観光を取り巻く状況

1 国内外の観光の動向・現状	04
2 函館観光の動向・現状	05
① 函館市の観光の現状	05
② 函館市の観光資源	06
③ 函館観光の評価	06
3 現状から見えてくるこれからの函館観光	07
① 函館市の観光客の状況	07
② 今後の函館観光に求められる取組み	07

第3章 「あるべき姿」と計画の基本理念

1 函館経済における観光の役割	08
2 函館観光のあるべき姿	09
3 函館観光の基本理念	10

第4章 基本方針・施策・目標

基本方針 1 質の高い観光により観光消費額を向上させる	12
基本方針 2 観光の繁閑差を是正する	19
基本方針 3 函館観光を盛り上げる人を増やす	24
基本方針 4 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、 観光への市民理解を促進する	26

第5章 観光基本計画の推進

1 計画の推進体制と進捗管理	27
① 函館市観光アドバイザー会議	27
② 事業の進捗管理	27

その他

コラム 経済波及効果とは	i
① 観光消費がもたらす経済波及効果とは	i
② 観光消費による経済波及効果を高めるために函館市内の事業者ができること	ii
③ 観光振興に向けて函館市民ができること	ii
用語解説	iii
計画策定までの経緯	vi

CHAPTER

1

第1章

計画策定の趣旨

- | | |
|------------|----|
| 1 計画の背景と目的 | 01 |
| 2 計画の位置付け | 02 |
| 3 計画期間 | 03 |



01 計画の背景と目的

本市は、時代の流れや旅行ニーズの多様化に合わせて、過去4回にわたり観光基本計画を策定してきました。第1次計画は「観光資源の掘り起こし」、第2次計画は「観光の産業化」、第3次計画は「観光文化のまちづくり」、第4次計画は「新しい国際観光都市」といった基本コンセプトに基づき、これまでに様々な施策を展開してきました。

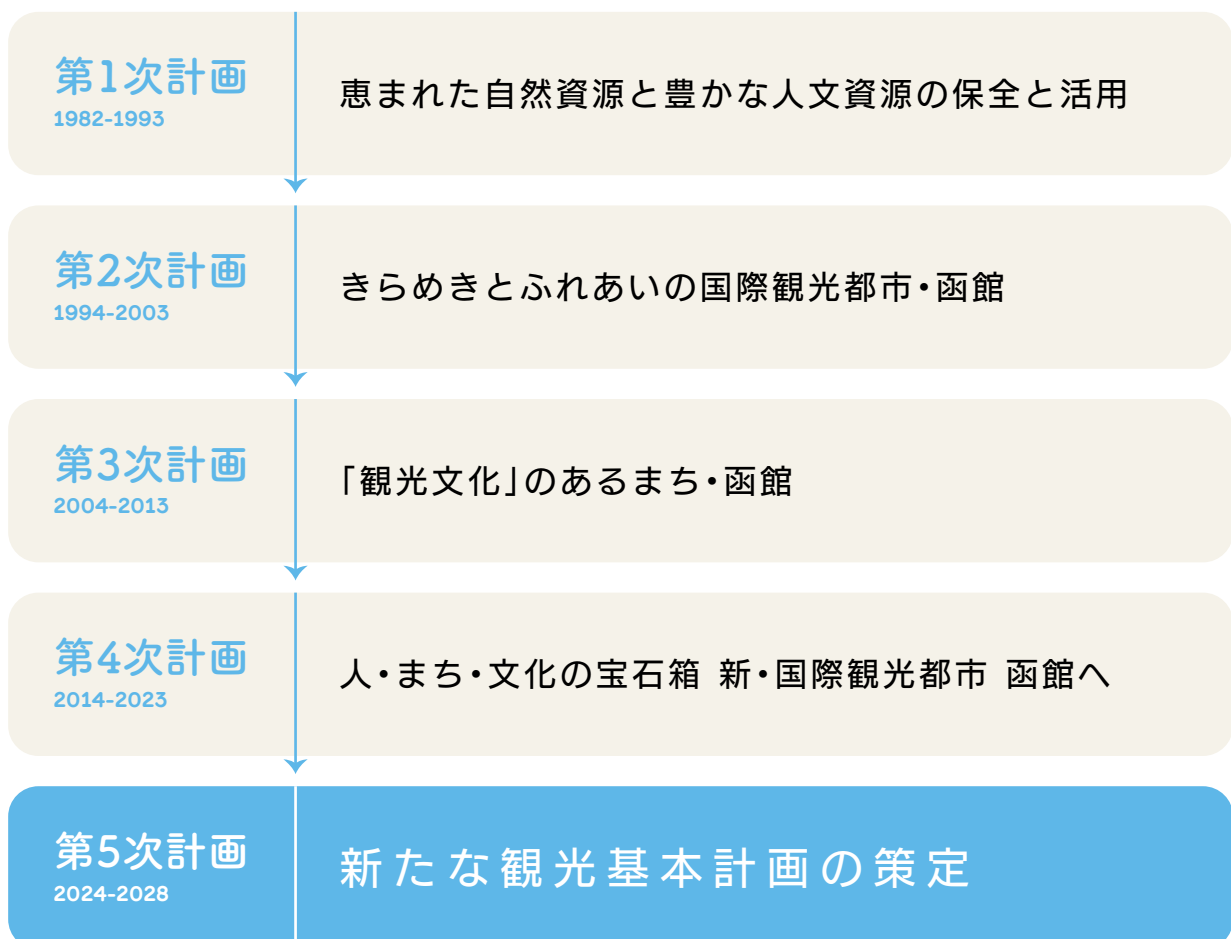
この10年間、日本を訪れる訪日外国人観光客の急増やソーシャルメディアを活用した情報発信の普及、多様性や持続可能性といった新しい概念の登場など、本市の観光を取り巻く環境は日々刻々と変化してきました。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大や国際的な情勢不安、気候変動といった世界的な危機は、市民生活だけでなく社会・経済などあらゆる分野に甚大な影響を与え、人々の生活スタイルや意識にも変化をもたらしました。

旅行需要が回復し、本市にも多くの観光客が戻ってきましたが、観光産業を巡る状況は、受入れ側の人手不足やデジタル化、多様性、持続可能性への対応、将来の担い手確保など、取り組むべき課題が数多く存在しています。

本市の観光を活性化させるためには、函館観光に携わる人々が一体となり、同じ方向に向かって進んでいくことが重要です。さらに、観光消費が多く、産業や市民生活に関わっていることに対する理解を深めることで、幅広い産業や市民の協力を得ながら、市民が誇れる観光都市を実現する必要があります。

そうした背景を踏まえ、次の時代へ向けた函館観光のさらなるステップアップを図ることを目的に、第5次となる函館市観光基本計画を策定いたします。



02 計画の位置付け

この基本計画は、「函館市基本構想（2017～2026）」「第2期函館市活性化総合戦略」における分野別の各論のうち、観光に関する個別計画として位置付けられるものです。

経済状況や社会情勢の影響を受けやすい観光分野においては、国や北海道の動きはもちろんのこと、国内外の観光動向の流れを的確に見極め、本市の特

性にあつた取組みを進めることが求められます。

本計画は、これからの観光振興に関する基本的な指針を示すものとして策定したものであり、第4章には、そのための施策の方向性を記載しています。

それらの効果的な推進にあたっては、関連計画などとの整合性を考慮しながら、型にとらわれない新たな視点を柔軟に取り入れていく必要があります。



本計画の期間は、**令和6年度(2024年度)から令和10年度(2028年度)までの5年間**とします。計画策定後は、社会経済情勢の変化に適切に対応して

いくため、進捗状況の管理に努めるとともに、必要に応じて見直していきます。

国の計画： 観光立国推進基本計画 (令和5～7年度)

基本的な方針

持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進する。
- 観光産業の収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善にもつなげる。〔稼げる産業・稼げる地域〕
- 地域住民の理解も得ながら、地域の自然・文化の保全と観光を両立させる。〔住んでよし、訪れてよし〕

インバウンド回復戦略

- 消費額5兆円の早期達成に向けて、施策を総動員する。
- 消費額拡大・地方誘客促進を重視する。
- アウトバウンド復活との相乗効果を目指す。

国内交流拡大戦略

- 国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指す。
- 旅行需要の平準化と関係人口の拡大につながる新たな交流需要の開拓を図る。

- 新たな観光立国推進基本計画では、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する、「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の3つのキーワードを特に留意しています。
- 基本の方針として、(1)持続可能な観光地域づくり戦略、(2)インバウンド回復戦略、(3)国内交流拡大戦略を掲げています。



北海道の計画： 北海道観光の くづくり行動計画 (令和3～7年度)

- 北海道観光のくづくり行動計画は、北海道で観光にかかわるすべての関係者が連携・協働して観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するための基本的な計画で、令和3～7年度を計画期間としています。
- 長期的な発展の視点から、北海道観光が将来的にめざす姿を、次のように定めています。

オンリーワン!自然・食・文化を活かした観光地

- 道民・国民・そして世界からも愛される北海道
- 道民が誇りをもって観光地づくりに関与 (HOKKAIDO LOVE!)
- アジアに加え、「ATWS 北海道/日本」を契機に欧米からの高い認知度
- 「ビジネス+観光」でも快適な滞在型の観光地

いつでも!どこでも!何度でも!

- 繁閑差(季節・平日休日等)・地域偏在(道央集中)の解消
- 旅マエ・旅ナカ・旅アト消費の拡大
- 何度来ても満足できる観光地
- 質や満足度の高いサービスの提供に向けてのホスピタリティ向上

誰もが安全・安心・快適に滞在

- 道内客・道外客・外国人が共に楽しめる観光地
- 国籍・年齢を問わないインフラの整備
- ハードとソフト両面における安全・安心の確保
- 道内観光地間を快適に移動できる二次交通
- 多言語・多様な媒体での迅速かつ正確な情報発信

持続的な観光関連産業の発展

- 道民の貴重な財産である自然環境や文化を守り育てながら次の世代につなぐ
- 四季を彩る雄大な自然との共生
- 高い観光推進機能(マーケティング、プロモーション等)
- 観光公害への対応と地域住民による観光産業への理解
- 国内外の人が働きたいと思う職場環境
- 新たな感染症や災害など不測の事態への強い対応力